「武士の家計簿」

評者・前島　常郎

2010年　日本映画
出演　堺雅人、仲間由紀恵
監督　森田芳光
原作　磯田道史『武士の家計簿「加賀藩御算用者」の幕末維新』
DVD販売元　松竹

「刀ではなく、そろばんで家族を守った武士がいた」

前田藩士猪山家の家計簿から、当時の下級武士の家庭生活がよみがえりました。

●ストーリー

猪山直之（堺雅人）は、加賀藩の前田家に仕える下級武士である。武士は武士でも、猪山家代々の得意技は剣術ではなく、そろばんと筆で働く計理職である。お役目は当時の用語で「算用者」。父の信之（中村雅俊）も一緒に城に出かけ、同じ部屋でそろばんをはじいている。城内には常時百五十人もの「そろばん役人」がいた。

直之は、剣術のほうはからきし駄目だが、算用は「そろばんバカ」とあだ名されるほどの腕前。それが、猪山家の「生きる術」だった。

数字が合わないことにはどうにも我慢ができない直之。それは城内のお役目に限らず、家計のやりくりについても同じだった。

直之の律儀な計算の結果、お救い米（飢饉の際の救援米）にからんだ汚職があぶりだされる。また、猪山家には、親子の録を合わせた額の倍に当たる膨大な借金があることが明らかになった。

「わが家はこれから、こまかく家計簿をつけることにいたします」

父からやりくりを任された直之が考えた借金返済のとっておき手段とは？

●見どころ

「チャンバラシーンが出てこないサムライ映画など、どこに見どころがあるのか」とひそかに思っていたが、そろばんの音が静かに響くユニークさに惹かれた。武士の家庭生活が、古い食器、おかず、そろばん、入拂帳（家計簿）という地味な小物によって丹念に描かれる。

直之に嫁いだお駒（仲間由紀恵）は、新婚第一日から婚礼費用の計算に手をつける夫に驚きながらも、はじかれる珠の音に

「とてもきれいな音ですね。生きる術の中に私も加えてください」

と直之の生き方に共感を示す。

直之は、まだ幼い長男の直吉（後の成之で、本編の語り手）に、そろばんと家計のまかない帳を記すことを教える。わずかな小銭の違いも厳しく見とがめる。こと細かな父に反発する直吉だが、結局それが家業として自分の身に付き、維新の後、海軍主計大官として大村益次郎から雇われることになる。

「今の世に必要なのは、君だよ。君のわざは、兵隊千人、いや万人に匹敵する」

祖父、父、そして息子と三代に渡って算用者として仕えた猪山家は、現代の家族にも様々なことを語りかけている。

・世間体を気にせず、身のほどの生活をすることの大切さ
・ごまかしのない生活の尊さ
・家業を代々受け継ぎ、世のために用いること
・夫婦が尊敬しあううるわしさ
・物に執着することのこっけいさ
・物をいとおしむ節約生活
・子どものしつけに対しての父親と母親の持ち味のちがい

●注意点

家族で見て困る場面は何もない。ただし時代物なので、子どもには言葉づかいは難解なところもある。それは親が説明すればよいだろう。本編を見て、さっそく原作が読みたくなった。